

平成 30 年度（10 月入学）

宮崎大学大学院農学研究科修士課程
学生募集要項

一 般 入 試

社 会 人 入 試

平成 30 年 6 月

宮崎大学大学院
農学研究科

目 次

I. [一般入試]

1. 専攻・コース及び募集人員	1
2. 出願資格	1
3. 出願期間	2
4. 出願書類等	2
5. 出願書類提出先	3
6. 選抜方法	3
7. 試験日時及び場所	4
8. 合格者発表	4

II. [社会人入試]

1. 専攻・コース及び募集人員	5
2. 出願資格	5
3. 出願期間	5
4. 出願書類等	6
5. 出願書類提出先	6
6. 選抜方法	6
7. 口述試験日程	7
8. 合格者発表	7
社会人の受け入れについて	8

III. [共通事項]

1. 障がい等のある入学志願者の事前相談	9
2. 入学手続等	10
3. 個人情報の取扱いについて	11
4. 注意事項	11

農学研究科アドミッションポリシー	12
------------------	----

平成30年度農学研究科指導予定教員、主な研究課題及び専門・口述試験科目	14
-------------------------------------	----

I. [一般入試]

1. 専攻・コース及び募集人員

専攻	コース	募集人員
農学専攻	植物生産環境科学コース 森林緑地環境科学コース 応用生物科学コース 海洋生物環境科学コース 畜産草地科学コース 農学国際コース	若干人

2. 出願資格

次の各号いずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成 30 年 9 月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 6 条第 1 項に基づき大学評価・学位授与機構が定めている要件を満たすものとして認定した短期大学及び高等専門学校の専攻科を平成 30 年 9 月修了見込みの者で、平成 30 年 9 月までに学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 30 年 9 月修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 30 年 9 月修了見込みの者
- (5) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成 30 年 9 月修了見込みの者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 平成 30 年 9 月末で、大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものとして、本研究科が認めた者
- (8) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学させる本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (10) 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者で、22 歳に達した者及び平成 30 年 9 月末までに 22 歳に達する者

注) 出願資格(7)、(9)、(10)により出願する者は、資格審査を行うので、平成 30 年 6 月 19 日(火)までに、農学部教務・学生支援係へ申し出ること。

3. 出願期間

平成 30 年 7 月 10 日(火)～7 月 13 日(金)

持参の場合、9時から17時まで受け付ける。

郵送の場合、「書留速達」とし、7月13日(金)17時必着とする。

4. 出願書類等

区 分	備 考
入 学 志 願 書	本学所定の用紙に所要の事項を記載したもの
受 験 確 認 票 受 験 票	本学所定の用紙に所要の事項を記載し、写真を所定の欄に貼付すること
卒業（修了）証明書又は 卒業（修了）見込証明書	出身学校長が作成したもの（本学部卒業見込みの者は不要）
成 績 証 明 書	出身学校長が作成し、厳封したもの
志望理由書（様式 1）	本学所定の用紙に、本人自筆で「本研究科への入学を志望する理由」を 400 字以内で記入したもの
写 真	写真上半身脱帽で、出願前 3 ヶ月以内に撮影したもの（縦 4 cm × 横 3 cm）を「受験確認票」及び「受験票」の所定の欄に貼ったもの
検 定 料	30,000 円 本学所定の振込依頼書を使用し、検定料を納入すること
振込証明書貼付台紙	本学所定の用紙を使用し、検定料振込証明書（C 票）を貼付すること
受験票送付用封筒	定形封筒（長形 3 号）に郵便番号・住所・氏名を明記し、切手 362 円分（速達）を貼ったもの（出願書類を直接提出する者は不要）
合格通知用封筒	本学所定の封筒に合格通知を受け取る際の郵便番号・住所・氏名を明記したもの（郵送料は不要）
あ て 名 票	本学所定の用紙に郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入したもの

(注 1) 「2. 出願資格(2)」による出願者のうち、学位を授与された者は、大学評価・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書、学位授与見込みの者は、在学する専攻科の修了見込証明書及び学位を申請する予定である旨の所属短期大学長又は高等専門学校長の証明書。

(注 2) 「2. 出願資格(7)」による出願者は、在学証明書（3 年次在学中の者のみ）及び履修の手引き（授業内容一覧も含む）を提出すること。

(注 3) 外国人で入学を志願する者は、在留カードの写(両面)又は住民票の写し及び身元引受人の承諾書を提出すること。

(注 4) 振込み済み検定料の返還については「Ⅲ. [共通事項] 4. 注意事項」を参照のこと。

5. 出願書類提出先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
宮崎大学学生支援部入試課
電話 (0985) 58-7138

出願書類を郵送する場合には「書留速達」として、封筒の表に「大学院農学研究科一般入試入学願書」と朱書きすること。

6. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験）、面接、成績証明書及び志望理由書等の書類審査の結果を総合して行う。

なお、「2. 出願資格(7)」による出願者については、上記のほか平成30年9月の時点で改めて提出を求める成績証明書(3年次の成績を含む)により最終的な判定を行う。

(1) 筆記試験

専門試験科目は、募集要項の「平成30年度農学研究科指導予定教員、主な研究課題及び専門・口述試験科目」を参照の上、志望するコースの専門試験科目の中から、入学後に指導を希望する教員（以下「指導希望教員」という）が指定する1科目を受験すること。

コース	専門試験科目	外国語
植物生産環境科学コース	施設園芸学、果樹園芸学、園芸利用学、作物学、応用昆虫学、植物生理学、地域農学、労働環境工学、生産システム工学、農業経営経済学、植物病理学、野菜園芸学、花き生理学	英語
森林緑地環境科学コース	造林学、地域環境施設学、応用生態学、森林経営経済学、森林バイオマス科学、木本植物科学、砂防学、森林立地学、地域水文気象学、生物環境物理学、森林計画学、森林利用学、森林保護学、国土管理保全学	
応用生物科学コース	応用生物化学、植物機能科学、食品科学、微生物機能開発学、動物資源科学 (注) 専門試験科目から選択した1科目に加え、「生物化学(物質化学)」(糖質、アミノ酸・タンパク質、脂質及び核酸に関連する化学を基本的な範囲とする。代謝は範囲から除外する)を必修として課す。	
海洋生物環境科学コース	海洋生物化学、海洋生物環境学、海洋生物生理病理学	
畜産草地科学コース	動物遺伝育種学、動物生殖制御学、動物生理栄養学、飼料作物・利用学、動物環境管理学、草地管理学、草類遺伝資源・育種学、草地畜産学、動物衛生微生物学、動物生産疫学、家畜飼養学	
農学国際コース	*注	

*注 農学国際コースについては、全専門試験科目の中から指導希望教員が指定する1科目を受験すること。

(2) 面接

コースごとに行う。

ただし、農学国際コースについては、指導希望教員が主に担当するコースで行う。

7. 試験日時及び場所

月 日	試験区分		時 間	場 所
平成 30 年 8 月 21 日(火)	筆記試験	英 語	9 : 30～11 : 00	宮崎大学 農学部
		専門試験科目	13 : 00～14 : 30	
8 月 22 日(水)	面接		9 : 30～	

※ 筆記試験では、試験開始後 30 分以内（英語は 10 : 00 まで、専門試験科目は 13:30 まで）の遅刻に限り受験を認めます。面接試験では、原則として試験開始後 10 分以内（9 : 40 まで）の遅刻に限り受験を認めます。

※ 応用生物科学コースにおける専門試験科目の筆記試験では、専門試験科目に加えて生物化学（物質化学）が課せられます。

※ 入学試験において不正行為をした場合は失格とし、合否判定の対象外とします。

8. 合格者発表

(1) 平成 30 年 8 月 31 日(金) 午前 9 時

合格者は、農学部に掲示するとともに、本人に通知する。

(2) 「2. 出願資格(7)」に該当する合格者については、これを仮合格として本人に通知する。

在学中の成績が所定の要件を満たしていることを確認したのち、正式の合格者として掲示するとともに、本人に通知する。そうでない場合は、不合格とする。

成績確認に必要な成績証明書(3年次の成績を含む)は、平成 30 年 9 月 5 日(水)までに提出すること。

Ⅱ. [社会人入試]

1. 専攻・コース及び募集人員

専攻	コース	募集人員
農学専攻	植物生産環境科学コース 森林緑地環境科学コース 応用生物科学コース 海洋生物環境科学コース 畜産草地科学コース 農学国際コース	若干人

2. 出願資格

次の各号いずれかに該当する者で、平成 30 年 9 月までに(A) 2 か年以上官公庁、企業又は教育機関等に勤務している者又は勤務した者、及び(B) 2 か年以上海外ボランティア活動又は国際協力経験がある日本国籍を有する者

- (1) 平成 28 年 9 月以前に大学を卒業した者
- (2) 平成 28 年 9 月以前に外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 6 条第 1 項に基づき大学評価・学位授与機構が定めている要件を満たすものとして認定した短期大学及び高等専門学校の専攻科を平成 28 年 9 月以前に修了した者で、平成 30 年 9 月までに学位を授与される見込みの者
- (5) 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者で、22 歳に達した者及び平成 30 年 9 月末までに 22 歳に達する者

注) 出願資格(5)により出願する者は、資格審査を行うので、出願者は平成 30 年 6 月 19 日(火)までに、農学部教務・学生支援係へ申し出ること。

3. 出願期間

平成 30 年 7 月 10 日(火)～7 月 13 日(金)

持参の場合、9時から17時まで受け付ける。

郵送の場合、「書留速達」とし、7月13日(金)17時必着とする。

4. 出願書類等

区 分	備 考
入 学 志 願 書	本学所定の用紙に所要の事項を記載したもの
受 験 確 認 票 受 験 票	本学所定の用紙に所要の事項を記載し、写真を所定の欄に貼付すること
卒業（修了）証明書	出身学校長が作成したもの（本学部卒業者は不要）
写 真	上半身脱帽で、出願前3ヶ月以内に撮影したもの（縦4cm×横3cm）を「受験確認票」及び「受験票」の所定の欄に貼ったもの
検 定 料	30,000 円 本学所定の振込依頼書を使用し、検定料を納付すること
振込証明書貼付台紙	本学所定の用紙を使用し、検定料振込証明書（C票）を貼付すること
大学院において行おうとする研究内容	1,000 字程度（任意様式）
本人の業績	研究論文、技術報告書、特許、実用新案等内容を示すもの、又は国際協力活動報告書（任意様式）
受験票送付用封筒	定形封筒（長形3号）に住所・氏名・郵便番号を明記し、切手362円分（速達）を貼ったもの（出願書類を直接提出する者は不要）
合格通知用封筒	本学所定の封筒に合格通知を受け取る際の住所・氏名・郵便番号を明記したもの（郵送料は不要）
あて名票	本学所定の用紙に住所・氏名・郵便番号・電話番号を記入したもの

(注1) 「2. 出願資格(4)」による出願者のうち、学位を授与された者は、大学評価・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書、学位授与見込みの者は、修了した専攻科の修了証明書及び学位を申請する予定である旨の所属短期大学長又は、高等専門学校長の証明書。

(注2) 「出願資格(B)」による出願者は、国際協力活動などに従事した機関・団体からの証明書（従事期間明記、任意様式）を提出すること。

(注3) 振込み済み検定料の返還については「Ⅲ. [共通事項] 4. 注意事項」を参照のこと。

5. 出願書類提出先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
宮崎大学学生支援部入試課
電話 (0985) 58-7138

出願書類を郵送する場合には「書留速達」として、封筒の表に「大学院農学研究科社会人入試入学願書」と朱書きすること。

6. 選抜方法

入学者の選抜は、各コースで定めた口述試験の他、提出された出願書類の審査、本人の業績等の結果を総合して行う。

口述試験

口述試験科目は、募集要項の「平成 30 年度農学研究科指導予定教員、主な研究課題及び専門・口述試験科目」を参照の上、志望するコースの専門試験科目の中から、入学後に指導を希望する教員（以下「指導希望教員」という）が指定する 1 科目を受験すること。

コース	口述試験科目
植物生産環境科学コース	施設園芸学、果樹園芸学、園芸利用学、作物学、応用昆虫学、植物生理学、地域農学、労働環境工学、生産システム工学、農業経営経済学、植物病理学、野菜園芸学、花き生理学
森林緑地環境科学コース	造林学、地域環境施設学、応用生態学、森林経営経済学、森林バイオマス科学、木本植物科学、砂防学、森林立地学、地域水文気象学、生物環境物理学、森林計画学、森林利用学、森林保護学、国土管理保全学
応用生物科学コース	応用生物化学、植物機能科学、食品科学、微生物機能開発学、動物資源科学
海洋生物環境科学コース	海洋生物化学、海洋生物環境学、海洋生物生理病理学
畜産草地科学コース	動物遺伝育種学、動物生殖制御学、動物生理栄養学、飼料作物・利用学、動物環境管理学、草地管理学、草類遺伝資源・育種学、草地畜産学、動物衛生微生物学、動物生産疫学、家畜飼養学
農学国際コース	*注

*注 農学国際コースについては、全口述試験科目の中から指導希望教員が指定する 1 科目を受験すること。

※ 入学試験において不正行為をした場合は失格とし、合否判定の対象外とします。

7. 口述試験日程

平成 30 年 8 月 22 日(水) 午前 9 時 30 分から

※ 口述試験はコースごとに行う。ただし、農学国際コースについては、指導希望教員が主に担当するコースで行う。

※ 口述試験では、原則として試験開始後 10 分以内（午前 9 時 40 分まで）の遅刻に限り受験を認めます。

8. 合格者発表

平成 30 年 8 月 31 日(金) 午前 9 時

合格者は、農学部に掲示するとともに、本人に通知する。

社会人の受け入れについて

急速な技術革新や社会経済の進展等により、様々な分野で活躍している社会人の間で、より高度な専門的知識や技術を習得するために大学院へ進学しようとする気運が高まっています。大学卒業後の職場における経験を通して培われた知識・技術をさらに大学院で磨いていくことは、社会人個人の自己啓発にとどまらず職場の活性化にも寄与するものと期待されます。

宮崎大学大学院農学研究科では、このような向学の志を抱く社会人を受け入れるために、現役の学生に課す学力試験にかえて、面接や業績を主体にして社会人の特別選抜を行い、その資質と意欲を評価しようとする制度を設けています。

1、2年次で履修する修士論文を中心とした特別研究の実施は必ずしも本学に限定しない、など履修方法も社会人の受け入れに即したものになっています。

多くの職場において、この特別選抜による進学が可能になるように、職員や社員を派遣する措置が講じられることを期待します。

平成 30 年 6 月

宮崎大学大学院農学研究科長

香川浩彦

Ⅲ. [共通事項]

1. 障がい等のある入学志願者の事前相談

障がい等があり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする人は、出願書類提出前に宮崎大学学生支援部入試課へ相談すること。相談内容によっては本学において事前の準備を必要とする場合がありますので、できるだけ早急にご相談ください。

次表に相談例を示しますので参考にしてください。ただし、この相談例に限定するものではありません。

(1) 相談時期

原則として第1次募集出願者は平成30年6月19日(火)まで

期限を過ぎている場合又は出願締切後に、不慮の事故のため受験上・修学上の配慮を必要とされる場合については、早急に宮崎大学学生支援部入試課へ連絡してください。

(2) 相談方法

相談申請書(様式任意)に次の内容を記載し、医師の診断書等を添えて提出すること(郵送可)。

- ①志願者氏名・志望学部・学科
- ②障がい等の種類・程度
- ③受験上・修学上の配慮を希望する事項
- ④出身学校でとられていた配慮事項
- ⑤日常生活の状況
- ⑥住所及び連絡先の電話番号

なお、必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者との面談等を行うこともあります。

※相談申請書ダウンロード先: <http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/exam/1789-2>

(3) 相談先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
宮崎大学学生支援部入試課
電話 (0985)58-7138 / FAX (0985)58-2865

相談例	
①視覚障がい	拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は困難なもの
②聴覚障がい	補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は困難なもの
③肢体不自由	1. 肢体不自由により、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難なもの 2. 肢体不自由により、常時の医学的観察指導を必要とするもの
④病弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患により、医療又は生活規制を必要とするもの 2. 身体虚弱により、生活規制を必要とするもの
⑤発達障がい	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等のため配慮を必要とするもの
⑥その他	①～⑤以外の者で配慮を必要とするもの

2. 入学手続等

合格者に対し、合格通知と併せて入学手続書類を送付するので、所定の期間内に入学手続を行うこと。また、受験票は入学手続時に使用するので保管しておくこと。

(1) 入学料 282,000 円

(注1) 入学料に改定があった場合は、改定後の入学料を納入すること。

(注2) 納入された入学料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

①入学手続書類を提出しなかった場合、②入学料を誤って二重に振り込んだ場合

(2) 授業料 前期分 267,900 円、後期分 267,900 円、年額 535,800 円

(注1) 授業料は、入学後に納入すること。

(注2) 授業料の支払いは、預金口座からの「口座振替」を原則とする。

(注3) 前期の口座振替日は、1年次は5月下旬頃、2年次以降は4月下旬頃の予定です。
後期の口座振替日は10月下旬頃の予定です。

(注4) 在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される。

(注5) 授業料に関する事項は以下のHPに記載しますのでご確認ください。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/campus/fees/jugyou/>

※ 入学料及び授業料については、定められた条件を満たす者に対して「免除」の制度があるので、該当すると思われる者は、入学手続時まで申し出ること。

3. 個人情報の取扱いについて

- (1) 個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人宮崎大学個人情報保護規則」に基づいて取り扱います。
- (2) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜(出願処理、選抜実施)、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用します。
- (3) 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
- (4) 上記(2)及び(3)の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より該当業務の委託を受けた業者において行うことがあります。
- (5) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報は、入学者のみ①教務関係(学籍、修学指導等)、②学生支援関係(健康管理、就職支援、入学料免除、授業料免除、奨学金申請等)、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

4. 注意事項

- (1) 出願書類を郵送で請求するときは、住所・氏名・郵便番号を明記し、切手 485 円(速達)を貼った返信用封筒(24×33.2 cm)を同封し、宮崎大学農学部教務・学生支援係に請求すること。必ず「大学院農学研究科学生募集要項(一般入試・社会人入試)請求」と朱書きすること。
- (2) 検定料の返還請求は以下の場合にのみ可能です。
 - ①検定料を振り込んだが本学に出願しなかった(出願書類を提出しなかった又は出願が受理されなかった)場合
 - ②検定料を誤って二重に振り込んだ場合

返還請求の方法: 検定料返還請求願(様式は問いません。返還請求理由、氏名(フリガナ)、現住所、電話番号、検定料返還先銀行口座情報(銀行名、支店名、口座種別、口座番号、口座名義(カタカナ))を明記したものを作成し、**必ず「C票検定料振込証明書」を添付のうえ、以下宛へ平成31年3月31日(日)(必着)までに、速やかに郵送してください。**平成31年4月1日(月)以降に申し出られた場合、返還に応じることはできませんのでご了承ください。

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
宮崎大学財務部財務課出納係
電話 (0985)58-7122 (土曜・日曜及び祝日を除く)

※ 募集要項の請求先及び内容に関する問い合わせ先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
宮崎大学農学部教務・学生支援係
電話 (0985)58-7152

I. 教育理念・目標

本研究科では、学部教育の専門性をさらに深化させ、専門性の高い分野で高度で先端的な科学技術を修得できる大学院教育を行います。国内外の食料、環境、資源および生命に関する問題点を解決し、自然環境と調和のとれた持続的生産社会の創造に貢献できるとともに、農学に関する高度な専門知識と応用能力を有する国際性豊かな高度専門技術者および研究者の育成を目指します。

植物生産環境科学コース：植物機能の開発・向上、生物環境の解析・制御、生産・加工・流通における農業生産環境の改善、地域生態系の管理等に関する高度な専門知識を教育し、その研究者や実践者を養成します。さらに国際的視野を持ち、安全で持続的な植物生産とその利活用に寄与できる人材を育成します。

森林緑地環境科学コース：人類の生存には水資源や森林・緑地の適切な管理が重要です。本コースでは森林および緑地の環境保全と生態系修復、森林資源や水資源の持続的利用に関する先端技術を教授し、国際社会での活躍も視野に、資源・環境問題に指導的な立場で活躍できる高度専門技術者・研究者の育成を目指します。

応用生物科学コース：生物科学に関わる知識と技術を有し、応用生物科学分野での科学技術の発展に寄与できる総合的な知識と実践力を備えた高度技術者および研究者を養成します。また国際化・情報化時代に対応できる人材の育成を目指します。本コースの修了生は、農業、化学、食品、医薬等の分野の技術者・研究者としての活躍が期待されます。

海洋生物環境科学コース：海洋・河川・池沼などの水圏における生物生産につながる幅広い基礎知識と応用技術を有し、水圏生物の生物多様性および生態系との調和を前提とした生産・利用技術の発展に貢献できる高度専門技術者および研究者を育成します。また、海洋生物や水産科学分野の中心的リーダーとして国際的に活躍できる人材の育成を目指します。

畜産草地科学コース：「土―草―家畜のつながり」と「from Farm to Table」を教育理念として、環境調和型・持続生産型の安全で高品質な畜産物生産システムに関する高度な教育研究を通じて、世界的視野を持ち、畜産草地に関して多面的に展開できる理論と専門的技術を修得した高度な専門職業人の養成を目指します。

農学国際コース：農学専攻（一専攻）の特色を活かし、学部教育で不十分であった分野横断型の環境保全的生物生産、動植物の統合的防疫、および生物遺伝資源の保存と利活用に関する課題探求・問題解決型の3つの実践プログラムを提供します。そして、海外の学術交流締結校と連携した相互交流教育を実践することにより、農学に関する多様で高度な専門知識・技能を国際的に活用し展開できる高度専門技術者および研究者を育成することを教育目標とします。

II. 求める人材

以上の教育理念・目標に掲げた人材を育成するために、本研究科では以下のような人を積極的に受け入れます。

植物生産環境科学コース：植物生産システムに関する大学学部レベル相当の専門的知識を有し、産業の発展に貢献する意欲がある人。生物資源の適正管理や農業生産環境の向上に関する専門的知識と意欲を有している人。持続的な植物生産のために国際的に活躍する意欲と基礎的な能力を有している人。

森林緑地環境科学コース：森林・緑地の機能、自然環境や国土保全、水資源等に関する大学学部レベル相当の基礎的専門知識・技術を持つ人。自己の知識および技術を用いて他者と協調しながら課題解決に取り組むコミュニケーション能力と、論理的思考力の素養がある人。森林および緑地の環境保全と生態系修復、森林資源や水資源の持続的利用に関する先端技術に関心をもち、より高度な専門知識と技術を身につけたい人。

応用生物科学コース：動物、植物、微生物、ならびにそれらを利用した食品が持つ機能やそれらを育む土壌が持つ機能を、生化学的、遺伝子工学的あるいは食品機能化学的に解明するための基礎学力を有している人。応用生物化学、微生物機能開発学、植物機能科学が関わる生物機能科学、および食品科学、栄養化学が関わる食品機能化学に関連するより高度な専門知識と技術を身につけたい人。応用生物科学分野で国際的に活躍する意欲のある人。

海洋生物環境科学コース：水圏生物、水域環境、水産化学、水産資源と管理、水産増養殖および生命に関する大学学部レベル相当の専門知識と研究技術を有している人。水圏生物に関する基礎科学分野、魚類などを含む脊椎、無脊椎のネクトン、プランクトン、ベントスおよびサンゴなどを含む、資源、多様性、分類、生理、生態、保全および環境問題に積極的に取り組もうと考える人。水圏生物の生産に関する応用科学分野である、増殖、病理、マリンバイオテクノロジー、水産食品および海洋機能成分の研究に積極的に取り組もうと考える人。

畜産草地科学コース：自給飼料に基盤をおいた資源循環・低投入持続型畜産に関する大学学部レベル相当の基礎的・応用的知識を備え、これらに関する英語による基礎的な表現・読解力を有する人。食料・飼料自給率の向上や自然・社会環境と畜産物生産システムとの調和に関する諸課題を分析・考察し、解決策を提示する基礎的な能力を有する人。国内外の「食料・農業・農村」をめぐる諸課題の解決に積極的に取り組む意欲を有する人。

農学国際コース：国際的視野で食料・環境・資源に関して大学学部レベル相当の基礎的・応用的知識を備え、これらに関する英語による基礎的な表現・読解力を有する人。また、将来、環境保全型生物生産、動植物の統合的防除および生物遺伝資源の保存と利活用に関する分野で国内外で活躍したい人。

III. 入学者選抜の基本方針

求める人材を受け入れるために、以下のような基本方針にもとづいて入学者を選抜します。

1. 同一年度内に複数回の入学試験を実施します。
2. 一般、社会人、留学生といった出願資格に応じた試験（筆記試験と面接の組み合わせ、あるいは口述試験のみ）を実施します。
3. 客観的で透明性のある方法によって、公平に選抜します。

平成30年度農学研究科指導予定教員、主な研究課題及び専門・口述試験科目

コース	職名	教員	主な研究課題	専門・口述試験科目
植物生産環境科学コース	教授	宇田津 徹朗	東アジアにおける環境と共生した水田稲作技術の変遷に関する研究	地域農学
	教授	竹下 稔	植物-ウイルス間相互作用と媒介昆虫による植物ウイルスの伝搬に関する研究	植物病理学
	教授	鉄村 琢哉	環境低負荷型果樹栽培システムの開発に関する研究	果樹園芸学
	教授	山本 直之	環境共生型物質循環システムの経営経済的評価に関する研究	農業経営経済学
	教授	湯浅 高志	作物の収量・環境ストレス耐性の向上に関する研究	作物学
	教授	大野 和朗	環境に優しい、持続可能な農業のための、保全的生物的防除を基幹とする害虫管理に関する研究	応用昆虫学
	教授	園師 一文	園芸生産物の機能性・食味成分向上に関する研究	園芸利用学
	准教授	狩野 秀之	農産物の産地間競争に関する計量経済学的研究	農業経営経済学
	准教授	木下 統	農作業の安全性・快適性に関する研究	労働環境工学
	准教授	槐島 芳徳	高品質農業生産のための機械化・情報化に関する研究	生産システム工学
	准教授	稲葉 丈人	植物細胞におけるオルガネラ形成と環境適応におけるその役割に関する研究	植物生理学
	准教授	本勝 千歳	環境変化に対応した新規熱帯果樹の導入と持続的生産に関する研究	果樹園芸学
	准教授	増田 順一郎	野菜・花きにおける育種と栽培技術の開発に関する研究	野菜園芸学
	准教授	稲葉 靖子	観葉植物の開花結実における熟産生機構とその利用に関する研究	花き生理学
	准教授	西 和盛	農業関連事業体の経営管理に関する研究	農業経営経済学
	講師	松尾 光弘	環境低負荷型作物栽培技術の開発と持続的雑草管理に関する研究	作物学
	助教	霧村 雅昭	環境と調和した資源循環型農業システムに関する研究	施設園芸学
助教	日吉 健二	未利用エネルギー回収装置及び農業用ロボットの開発に関する研究	生産システム工学	
森林緑地環境科学コース	教授	伊藤 哲	森林景観における生物多様性保全と生態系サービスに関する研究	造林学
	教授	稲垣 仁根	流域物質循環システムにおける環境共生型水理構造物の最適設計に関する研究	地域環境施設学
	教授	清水 収	流域スケールの土砂動態と土砂災害軽減に関する研究	砂防学
	教授	多炭 雅博	衛星リモートセンシングを利用した環境計画および管理に関する研究	生物環境物理学
	教授	西脇 亜也	生態緑化と生態学的農法に関する研究	応用生態学
	教授	藤掛 一郎	木材生産と森林環境保全を両立させる人工林経営と地域林業に関する研究	森林経営経済学
	教授	亀井 一郎	森林微生物機能を用いた木質バイオマスの利用ならびに環境浄化技術開発に関する研究	森林バイオマス科学
	教授	雉子谷 佳男	木本植物の木部形成と木材材質の変動に関する研究	木本植物科学
	教授	光田 靖	森林の多面的機能に配慮した森林計画に関する研究	森林計画学
	教授	高木 正博	森林生態系における物質循環に関する研究	森林立地学
	准教授	竹下 伸一	流域における水・気候資源の評価に関する研究	地域水文気象学
	准教授	中園 健文	自然環境に配慮した構造物ならびに農業生産環境に関する研究	地域環境施設学
	准教授	櫻井 倫	木材生産のための林内道路網と収穫作業システムに関する研究	森林利用学
	准教授	篠原 慶規	水・土砂移動に関連した自然環境問題・自然災害に関する研究	国土管理保全学
	講師	平田 令子	野生動物の保護・管理と森林生態系の保全に関する研究	森林保護学

コース	職名	教員	主な研究課題	専門・口述試験科目
応用生物学コース	教授	河原 聡	畜産食品の品質向上に関する研究	動物資源科学
	教授	國武 久登	果樹の品種開発に関する遺伝育種学的研究	植物機能科学
	教授	佐伯 雄一	根粒菌のゲノム生態学的研究	植物機能科学
	教授	酒井 正博	水域生物の免疫系ゲノム解析に関する研究	動物資源科学
	教授	榊原 啓之	“時間”を考慮にいたした食品・栄養化学研究	食品科学
	教授	榊原 陽一	プロテオミクスによるタンパク質の機能に関する研究	応用生物化学
	教授	窄野 昌信	食品成分による脂質代謝調節に関する研究	食品科学
	教授	吉田 ナオト	環境と微生物の相互作用解明およびその利用に関する研究	微生物機能開発学
	教授	山崎 正夫	共役脂肪酸の生理機能に関する研究	食品科学
	准教授	井上 謙吾	微生物機能を利用したエネルギー生産と環境浄化に関する研究	微生物機能開発学
	准教授	江藤 望	細胞老化と炎症に関する研究	応用生物化学
	准教授	河野 智哉	魚類の生理活性物質による免疫制御機構に関する研究	動物資源科学
	准教授	仲西 友紀	畜産食品の機能性成分に関する研究	動物資源科学
	准教授	西山 和夫	食品成分の生理機能に関する研究	食品科学
	准教授	引間 順一	水圏生物における自然免疫システムに関する研究	動物資源科学
	准教授	平野 智也	花卉園芸植物の品種改良に関する研究	植物機能科学
	准教授	山本 昭洋	植物の環境ストレス耐性と生産性向上に関する研究	植物機能科学
	准教授	服部 秀美	肥満に起因する疾患の発症機序についての研究	応用生物化学
	講師	山崎 有美	地域食品の機能性に関する研究	食品科学
助教	黒木 勝久	生理活性物質の代謝に関する研究	応用生物化学	
海洋生物環境科学コース	教授	岩槻 幸雄	魚類の多様性、分類、資源及び保全に関する研究	海洋生物環境学
	教授	幡手 英雄	海洋生物の有用成分（機能）に関する研究	海洋生物化学
	教授	吉田 照豊	海洋生物における病原微生物による感染症に関する研究	海洋生物生理病理学
	教授	林 雅弘	海洋生物が生産する機能性成分の利用に関する研究	海洋生物化学
	教授	内田 勝久	海洋生物における成長と繁殖生理機構に関する研究	海洋生物生理病理学
	教授	田中 竜介	海洋生物における機能性成分の分析に関する研究	海洋生物化学
	准教授	ウルバンチク ヘンリック	海洋性細菌の多様性と進化に関する研究	海洋生物環境学
	准教授	田岡 洋介	海洋微生物の生理生態と有用物質生産に関する研究	海洋生物化学
	准教授	深見 裕伸	海洋無脊椎動物（特にサンゴ）の進化、生態に関する研究	海洋生物環境学
	准教授	安田 仁奈	海洋無脊椎動物における初期生態及び集団遺伝構造に関する研究	海洋生物環境学
	准教授	長野 直樹	海洋生物資源の有効利用と水産業の高度化に関する研究	海洋生物化学
	助教	村瀬 敦宣	沿岸環境と生物多様性に関する研究	海洋生物環境学

コース	職名	教員	主な研究課題	専門・口述試験科目
畜産草地科学コース	教授	明石 良	草類の遺伝資源解析とその育種的利用に関する研究	草類遺伝資源・育種学
	教授	石井 康之	飼料資源植物の生産機構に関する研究	飼料作物・利用学
	教授	川島 知之	飼料自給率向上と畜産分野からの温室効果ガス削減に関する研究	動物生理栄養学
	教授	續木 靖浩	動物生産における生殖制御に関する研究	動物生殖制御学
	教授	家入 誠二	家畜の環境管理および育種理論に関する研究	動物環境管理学
	教授	撫 年浩	家畜の成長と生産物との関係に関する研究	家畜飼養学
	准教授	井口 純	ヒトや家畜に病気を引き起こす細菌の遺伝学的研究	動物衛生微生物学
	准教授	石田 孝史	家畜の育種改良における統計遺伝学および分子遺伝学的研究	動物遺伝育種学
	准教授	井戸田 幸子	草地における粗飼料の生産と土壌環境に関する研究	草地管理学
	准教授	小林 郁雄	動物生産における適正な飼養管理に関する研究	草地畜産学
	准教授	佐々木 羊介	疫学手法による生産効率向上を目的とした飼養管理の確立に関する研究	動物生産疫学
	准教授	飛佐 学	草地における牧草生産と管理に関する研究	草地管理学
	准教授	高橋 俊浩	動物生産における栄養機能の解析と利用に関する研究	動物生理栄養学
	講師	坂本 信介	家畜・動物園動物・野生動物の行動と生態およびこれらの動物の環境管理に関する研究	動物環境管理学
	講師	石垣 元気	温帯地域におけるイネ科およびマメ科植物の生産	草地畜産学
	助教	権藤 崇裕	草類の分子育種とその安全性評価に関する研究	草類遺伝資源・育種学
助教	徳永 忠昭	効率的な優良家畜集団造成に関する研究	動物遺伝育種学	
助教	新美 光弘	暖地における草類利用と温暖化抑制に関する研究	飼料作物・利用学	